

平成 23 年度 第1回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録

開催日時

平成 23 年 6 月 2 日（木曜日） 14 時 00 分～16 時 30 分

開催場所

小平市役所 3 階 301 会議室

出席者

椎名委員長 山田委員 池貝委員 3 名
(事務局) 2 名

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 委員会の昨年度の活動内容について
 - (2) 委員会の今年度の活動について
 - (3) 楽しさ森²ウォークの企画案等について
 - (4) 楽しさ森²調査に向けての広報について
 - (5) スケジュール
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

- 資料-1 平成 22 年度森のカルテ作成準備委員会（実績）
- 資料-2 平成 23 年度森のカルテ作成準備委員会日程
- 資料-3 楽しさ森²ウォーク企画（案）
- 資料-4 楽しさ森²ウォーク実施計画書（案）
- 資料-5 楽しさ森²調査に向けての広報について

<議事>

1 委員会の昨年度の活動内容について

内容が確認され、了承された。

2 委員会の今年度の活動について

委員長

全日本花いっぱい大会での途中成果の発表とあるが、どのような大会で、どういった発表の場を考えているのか。

事務局

平成 24 年 5 月 12 日（土）にルネ小平で総会と式典を実施する予定である。場所は未定だがレセプションも行い。ガーデニングコンテストやグリーンフェスティバル等の緑と花に関係するイベントを集結させていきたい。森のカルテ

づくり関係単独で発表の場を設けることは難しいかもしれないが、今後の事業の進捗状況に合わせて、何かしらの形で発表する方向で検討している。

委員長

小平のアイデンティティの一つとして雑木林があるが、林床に咲くギンランやキンランが今年は多く花咲いている。森の再生といったジャンルで、草花などを捉えていけないか。

委員

全国規模の大会であるが、どのような経過で小平市の実施となったのか。

事務局

戦後、松本市の小学校教諭が、街並みが寂しいということで花を植えていったことから、花いっぱい運動となり全国に広がっていったものである。現在では約60数団体が加入し、全日本花いっぱい大会事務局が松本市にある。

小平市での大会開催の経過は、一昨年に大会事務局より、市制50周年を迎える平成24年度に実施しないかとの打診もあり、第55回大会が小平市で開催の運びとなったものである。昭和30年から始まった大会の中で、東京都の実施は昭和48年の台東区以来の開催となるものである。市としては、市制記念事業だけで終わらせることなく、この大会をきっかけとした緑施策の継続した取り組みを推進しようとしているところだ。

委員

スケジュール表のねらいの項目に「自己実現の達成」とあるが、平成24年度末に自己実現の達成としていることに無理がないか。

秋から始まる試行について、同じ場所を2回は見て比較対照しないと、実感がわかないかもしれない。大きな意味では、ボランティア活動は、最初は「行政のためにやっているんだ」から徐々に「自分のためにやっているんだ」に変化していく過程に自己実現があるのかもしれない。

委員

事務局側のねらいと参加する方の気持ちが同じレベルで書かれているのでわかりづらいようだ。これだと自己実現で終わってしまったように思える。逆にスタートと考えるべきである。

委員長

森のカルテづくりの試行のPDCAサイクルを考えるとということだ。

PDCAサイクル

マネジメント管理の一つで、Plan (計画) → Do (実施) → Check (点検・評価) → Action (改善) といったサイクルにより円滑な管理を実施する考え方。

事務局

ここでいう、自己実現とは、狭義では、調査員自身が参加して気づいた内容をその場で形にできるといった意味もあるが、今年度スケジュールの表記の方法については検討していきたい。

3 楽しさ森²ウォーク企画（案）等について

委員長

参加者がどのような人達であるのかにもよるが、公募委員の募集がどのように推進されていくのか。

事務局

確かに、参加者の多くが、夏休みの宿題のための親子連れであったりする可能性もある。それはそれで、新たな視点で雑木林を見てもらえることにもなるので良いが、今回の公募員は、試行しながら森のカルテづくりガイドブックを手直ししていくメンバーでもあるので、全員親子連れではどうかと思う。そのような場合も考えて緑化推進団体や多摩六都（東村山市・東久留米市・清瀬市・西東京市・小平市）などの広域の団体との連携も必要となると考えており、更に教育委員会関係や小中高校関係者も考えている。

委員長

近隣の広域団体には雑木林が多いので、武蔵野の地域ブランドとなる可能性もあるので重要なことだ。

事務局

多摩六都の検討課題のテーマとして、雑木林の再生がテーマになる可能性はあると考える。

委員

企画案の「森の調査」の項目では、ガイドブックに掲載された調査の中で、具体的にどの調査をやるのか。

事務局

金属パイプ棒を利用した土壌観察をやろうとしているが、市職員により4回ほど試しているが、もう少しのレベルまできている。セカンドプランとして、樹木観察調査も考えている。

委員長

あまり難しいようであれば、長谷川式の^{けんどじょう}検土杖なども検討したらどうか。

委員

単管の直径を45mmから小さいものに変更したらどうか。

関東ローム層は10cmか20cmだと思うので、実際に雑木林でやった方が良い。

事務局

直径45mmの単管金属パイプに背割した塩化ビニール管を入れて、土壌とともに引きぬくような、小平方式の検土杖なるものを考えている。

委員長

15分の調査時間であるので、予め調査地点の把握をすべきだ。

更に、落雷の危険があった場合に避難できる公共施設を把握する必要がある。また、8月はスズメバチの巣などのチェックし、情報を一番知っている森の所有者などへの聞き取りをした方が良いだろう。

委員

特に、地中や切株に巣を作るスズメバチもいるので注意が必要だ。

事前に私どもと確認をしましょう。

委員

持ち物や服装の周知はどうするのか。特に女性は、香水などが昆虫を誘引する可能性もあるので避けた方がよい。

事務局

市報では、帽子・長袖・長ズボンなどの森に入りやすい服装、飲み水持参との掲載を予定しているが、詳細については紙面上記載できない。参加者確定の段階で対応する方向にしたい。

4 楽しさ森²調査に向けての広報について

委員長

中央公民館の雑木林関係のタイムリー講座参加者に配布する資料5-3のパンフレットについては、市報掲載前でもあるのでパブリシティの関係に注意しなければならないだろう。実施を予定しているという表現の方が良いのではないか。

委員

資料5-3のパンフレットの2枚目は、もう少し調査の目的や意味を中心に記載した方がよい。

事務局

御指摘の内容を反映し訂正したパンフレットを6月9日に中央公民館のタイムリー講座で配布していきたい。その他、市報やホームページ掲載、小学校・図書館への配布については予定どおり実施するものとしたい。

5 スケジュールについて

事務局

第1回楽しさ森²ウォーク及び第2回楽しさ森²ウォークともに、森のカルテ作成準備委員会として実施するのではなく、委員の方が担当した形をとりたい。よって、次回の森のカルテ作成準備委員会は、市民公募を実施している10月中旬に実施予定である。

委員

全員了承

委員長

では、本日はお疲れさまでした。

平成 23 年度 第2回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録

開催日時

平成 23 年 1 0 月 2 4 日（月曜日） 14 時 10 分～16 時 45 分

開催場所

小平市役所 6 階 6 0 0 会議室

出席者

椎名委員長 山田委員 2 名
（事務局） 2 名

傍聴人

1 名

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 楽しさ森²調査の企画内容について
 - (2) 雑木林調査隊員の委員会への参加について
 - (3) スケジュール
- 3 閉会

配布資料

- 資料－1 第1回森のカルテ作成準備委員会会議要録（報告）
- 資料－2 楽しさ森²ウォーク実施結果（報告）
- 資料－3 楽しさ森²ウォーク参加者アンケート結果（報告）
- 資料－4 雑木林調査隊の市民公募結果（報告）
- 資料－5 楽しさ森²調査の企画内容（案）
- 資料－6 雑木林等視察全体図（案）
- 資料－7 雑木林調査隊員の委員会への参加について
- 資料－8 楽しさ森²調査スケジュール

<議事>

1 楽しさ森²調査の企画内容について

委員長

気になる木を探そうで、コドラード（メッシュ状の調査サンプルの区画）を1メートルで実施するとのことだが、草本類は1メートルでも良いが、樹木については10メートルぐらいのメッシュにした方が良いのではないか。また、標準的な箇所を選んで、樹冠の投影も必要ではないか。

委員

確かに東京都の環境調査では10メートルのメッシュで調査している。標準的な箇所として20メートル四角ぐらいは必要であろう。

委員長

20メートル四角の標準的な個所を選定し、その箇所を10メートル四角に4つで区切るメッシュが良いのではないかと。また、特定するための距離は、事務局で言う歩測（人間尺度）で実施し、磁石を利用して南北の軸線を把握して、直角に東西軸を把握して、地表部にメッシュ状のビニールテープを張らなければならない。

委員

高木、中木、低木の三層構造になっているのか。高木だけの構造なのかを調べるためには、断面構造も必要である。

事務局

断面構造で、雑木林の中に入って、遠景から測れない樹木についての高さを測量することが難しい。

委員長

測高器^{そっこうき}というものがあるが、身近な用品を利用して森を調査するという趣旨だから使用せず、5～10メートルぐらいの釣ざおを利用したらどうか。

委員

樹木密度の計測などにも利用できるし、軽量で持ち運びやすい。

委員長

図面の縮尺を分かるようにしたほうが良い。三角スケールを使用できた方が良いが、サンプリング調査では難しいかも知れない。

事務局

雑木林は、実測図面がほとんど無いので厳しいかもしれないが、何かしらの方法で、そのような図面を作成していきたい。

委員長

人間尺度は、これからの調査の基本となるもので、フィールドワーク調査法みたいなものだ。調査員個々人が実際にやってみることが大切である。そして、その尺度の結果を身分証明書の裏面に記録して、調査当日に携帯しているのは良いアイデアだ。

事務局

明治政府が、地租改正において土地の求積方法の一つとして採用した十字法といった求積についても、当日行う予定である。歩測を行うために、20メートルの歩数の平均をだして、調査員の1歩あたりの長さ人間尺度として登録したい。

また、目通しの高さ（1.2メートル）の調査員の身体の部位、目通しの高さの樹木幹回りの計測のための腕周りも人間尺度で登録する予定である。

委員長

単位はメートルぐらいで良いだろう。歩測は3本ぐらいやって平均をだせばよい。人間尺度を登録して、実際にやってみて、応用して、みんなで共有して、自信をつけてもらうことが大切ではないだろうか。

委員

フィールドワークなどでも、遊びの感覚のプログラムがあるので参考になると思う。また人間尺度の登録でも2人1組にしてコミュニケーションを図りながら進めていく必要がある。

事務局

午後の「森のカルテづくりガイドブック」の説明時間を短くして、もう少し人間尺度の登録と樹木の太さである幹回りや雑木林の求積の時間を多くしたい。

委員長

人間尺度を決定して、応用して、検証していく。日常の生活でも活用できるものである。市が会員証に登録して認定することで、雑木林調査隊の記憶に残っていくようにした方が良い。人間尺度のスケールに愛称をつけるのも面白い。

2 雑木林調査隊員の委員会への参加について

委員長

傍聴人と雑木林調査隊員で参加する関係人の会議の関わり方は違うのか。

事務局

傍聴人は、発言はできないが、関係人は必要に応じて委員長からの指示により意見ができるものと考えている。

委員長

意見を求める内容は、あらかじめ決めておいた方が良くと思う。

事務局

関係者の人数について、雑木林調査隊15人全員が関係人として参加した場合、会議室のキャパ等の支障があるかもしれないので、上限5人位にすることでよいか。

委員長

関係人には、参加依頼の通知をして予め参加人数を確認しておけば良い。人数の制限は、まずはしない方向で考えたらどうか。ただ申込み多数の場合は調整させていただきますといった表現も必要だろう。予め意見を聞いとくのも良いのではないか。席次なども傍聴人とは別にした方が良くと思う。

事務局

了解しました。

3 スケジュールについて

委員長

3月の春の調査だが、3月24日だと、葉が展葉はしていない、下草はどうだろうか。アズマイチゲ・イチリンソウ・カタクリ・ヒトリシズカなどが見られるかどうかぐらいだ。

【展葉（てんよう）】

畳まれた状態の発芽した葉が開くこと。

委員

3月中旬には難しいようだ。アズマイチゲは玉川上水の野草ゾーンに見ることができる。

委員長

雑木林に特有なスプリングエフェメラル（春のはかない命）といったものがカタクリやイチリンソウである。そういうものを見るのであれば、4月の上旬から中旬頃が良いかもしれない。

【スプリング・エフェメラル】

カタクリのように、春先に花を咲かせ、夏までの間に光合成を行って地下の栄養貯蔵器官や種子に栄養素を蓄え、その後は春まで地中の地下茎や球根の姿で過ごすという植物が雑木林には多い。そのため、そのような林床は、春先にとともにぎやかになる。このような一群の植物を春植物、スプリング・エフェメラルという。

委員

ウグイスの初音（はつね）も3月中旬には難しいかもしれない。カタクリは玉川上水の近くに多いようだ。

委員長

キンランやギンランも見たいが、5月連休明けぐらいに咲くので、3月から4月でも無理だろう。アズマイチゲは3月中かもしれない。

委員

イチヤクソウやチゴユリも雑木林に生育している。

委員長

どこに合わせるのか難しいが、雑木林の調査でコナラやクヌギの葉が展葉する4月中旬に調査日を設定し、そこで発見できる林床の植物を調査する方向でも良いのではなかろうか。

委員

4月であれば、スマレが咲いているだろう。また、ドングリの発芽を見ることができると思う。

事務局

では、4月中旬に春の調査を実施する方向で調整いたします。

また、欠席された委員の意見についても、各協議事項の中で紹介させていただきましたので報告いたします。

本日はお疲れさまでした。

平成 23 年度 第3回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録 及び第 1 回楽しさ森²調査についての報告

開催日時

平成 23 年 1 月 5 日（土曜日） 9 時～16 時 15 分

開催場所

中島町地域センター 2 階 集会室及び近隣の雑木林の森

出席者

- 1 小平市森のカルテ作成準備委員会
椎名委員長・山田委員
- 2 雑木林調査隊
15 名参加
- 3 事務局
2 名

内容

- 1 市内の雑木林などの見学会
- 2 市民による森のカルテ作成ガイドブックの説明
- 3 第 1 回森の調査

<報告>

1 市内の雑木林などの見学会

(1) 説明内容

市内のみどり資源を見学してもらうことで、雑木林調査隊の見識を更に深めてもらった。特に、1656年の小川村の新田開発以降、1700年代の享保の改革による近隣の急速な新田開発を契機に、当時の燃料や堆肥などを生産する薪炭林としての雑木林が活用されていったことを確認した。また、合わせて、用水路や社寺林そして農地などのみどり資源についても新田開発に由来するものであることを確認した。

(2) 見学スケジュール

- ①東大和市駅集合（8時50分）
↓ 改札前にて集合
- ②東大和市駅出発（9時5分）
↓ マイクロバスにて移動
- ③小川町1丁目にある保存樹林（9時20分）
↓ 午後に森の調査を行う雑木林
- ④きつねっばら公園（9時35分）
↓ 短冊状の農地の面影を確認
- ⑤上水新町1丁目にある保存樹林群（9時50分）
↓ 市内最大の保存樹林
- ⑥上水本町2丁目にある保存樹林（10時15分）
↓ 玉川上水沿いの雑木林

⑦上水南町1丁目にある保存竹林（10時40分）

↓ 市内最大の保存竹林

⑧大沼町1丁目にある屋敷林（11時15分）

↓ 比較的大きな屋敷林

⑨大沼町2丁目にある保存樹林（11時17分）

↓ 屋敷林と一体となった保存樹林

⑩小平神明宮（11時45分）

↓ 代表的な社寺林

⑪中島町地域センター（11時50分）

午後から森の調査開始

2 市民による森のカルテ作成ガイドブックの説明

説明内容

市民による森のカルテガイドブックの概要について理解してもらった。特に、身近な生活用品などを利用して調査していく主旨を理解いただき、まずは人間尺度といた、雑木林調査隊員自身の人間スケール、つまり手のひらや身長などを二人一組になって確認した。歩幅については、森の調査の雑木林で実施することとした。

3 第1回森の調査内容

森のカルテ作成準備委員会と市で作成した「市民による森のカルテガイドブック」による森の調査のデモンストレーションを雑木林調査隊14名とともに実施した。実際に実施したことで見えてきたことを集約した。

(1) にんげんしゃくど人間尺度の登録

①歩幅

20メートルのピッチを雑木林内設置し、一定の歩幅で歩いた歩数を3回測定し、平均値を算出した。

【ポイント】

一定の歩幅を安定させるために、足元を見ないで、背筋を伸ばし、遠めを見ながら歩くこと。

② めどお みきまわ目通し幹周りの高さ

地面から1.2メートルの高さ位置で樹木の幹の周囲を測るといった、めどお みきまわ目通し幹周りの高さについて、身体のどこの部位か確認した。

【ポイント】

めどお みきまわ目通し幹周りの高さは、1.2メートルや1.5メートルなど制度によってバラつきがある。市では、子どもが参加した場合も考えて、一番低い基準を採用したものである。

③手を広げた長さ

樹木の目通し幹周りを測るために、手を広げた、右手指先から左手指先までの長さを測ったが、実際に樹木を抱えるように測ると15センチメートルから25センチメートルの誤差が生じてしまった。

【ポイント】

人間の骨格の動きも加わるため誤差が生じたと思われる。実際に樹木を抱える状態で左指先から右指先まで測る方法に変更して登録した。

(2) 森の調査

①目通し幹周り

地面の高さから1.2メートルの位置がどこであるか、樹木にマークしないと、視線が離れるので分かりづらいことが分かった。また、腕周りの他に端数がでたら手丈も利用して計測するが、二人で測った方が作業しやすい。

【ポイント】

目通しの高さで平行に樹木を抱きかかえているか、横から見る役割も必要ことが分かった。また端数は、もう一人の方が手丈で計測して差引する方法が合理的である。

②面積の求積

明治政府が、地租改正で全国の農地などを求積した方法の一つである十字法といった方法で実施した。

【ポイント】

十字をどの地点で計測するのかを予め図面に記載する。また、歩測する線形上に藪や構造物などの障害物が無いか確認する。有ったとしても、フェンス堀のブロックの数などで代替して測られるものが無いか確認する。更に、歩測の歩く線形が分かりづらいところは、ビニールテープを設置して、方向線が分かるようにすると良い。

(3) わかちあい

中島町地域センターに戻り、森の調査についての情報の共有を行った。森のカルテづくりでは、この作業を「わかちあい」という。時間の関係で、調査結果では求積についてのみ確認した。

①求積について

調査員	A※	B※	C	D※	E	F※	G※
面積㎡	3,314	3,255	2,996	3,637	3,979	3,591	3,591

調査員	H	I※	J※	K	L※		平均
面積㎡	2,896	3,360	3,171	2,982	3,333		3,342

◇最大値 3,979平方メートル

◇最小値 2,896平方メートル

◇平均値 3,342平方メートル

◇平均値前後1割の件数

3,007㎡ < 8件 < 3,676㎡

平均値3,342㎡の1割前後の範囲に8件（調査員欄に※記載）あるので、計測結果のバラツキは思ったより少なかったと言える。

【ポイント】

縮尺が分かる地図や空中写真で、図上の計測もした方が良い。

②その他について

◇保存樹木と保存樹林の違いについて説明して欲しい。

保存樹木は単独の樹木に対する制度であり、保存樹林は330㎡以上の一団の雑木林に対する制度である。

保存樹木：幹の太さが地上から1.5mの位置で幹回り1.5mであり、高さ15メートル程度以上ある樹木を保存樹木として指定できる。指定されると10年に1回ではあるが、8万円の剪定費用の補助を受けることができる。

保存樹林：330㎡以上で高さが5m程度以上の一団となった雑木林を保存樹林として指定できる。指定されると固定資産税は免除され、年間1㎡8円の補助が受けられるようになる。少しでも、雑木林の所有者の管理負担を軽減することで、雑木林の保全に寄与するものである。

◇保存樹林の放射能は測定しているのですか、今後の調査に影響がないのでしょうか。

近隣の雑木林について保全団体により調査しているが、市内の公園などの公共施設と同じ程度の数値であり、現段階では問題ないと考えている。

以上

平成 23 年度 第4回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録

開催日時

平成 23 年 1 月 22 日（木曜日） 13 時 30 分～15 時 50 分

開催場所

小平市役所 3 階 庁議室

出席者

- 1 森のカルテ作成準備委員会
椎名委員長 山田委員
- 2 雑木林調査隊
6 名
- 3 事務局
2 名

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
(1) 第 1 回楽しさ森²調査の結果について
(2) 第 2 回楽しさ森²調査の企画内容について
(3) スケジュール
- 3 閉会

配布資料

- 資料-1 第 2 回森のカルテ作成準備委員会会議要録（報告）
- 資料-2 第 1 回楽しさ森²調査及び第 3 回森のカルテ作成準備委員会の結果について
- 資料-3 楽しさ森²調査ホームページについて
- 資料-4 雑木林調査隊員の委員会参加の希望調査について
- 資料-5 市民による森のカルテの構成と記載例
- 資料-6 第 2 回楽しさ森²調査の企画内容（案）
- 資料-7 第 2 回楽しさ森²調査のワークシート（案）
- 資料-8 スケジュール

<議事>

1 第 1 回楽しさ森²調査の結果について

委員長

第 1 回目の調査として、これからの調査に必要となる人間尺度を登録し、実際に利用して基本的な調査を実施できたことは良かった。雑木林調査隊の方々の感じたことなどがあればお聞きしたい。

雑木林調査隊

幹周りを測るときに、腕ではなく、ヒモやメジャーを使用した方が効率的ではないだろうか。

委員長

ヒモのメジャーがあれば簡単であろう。メジャーでなくてもヒモが何 cm であるか分かっているならば、ヒモを尺度として計測することは可能であろう。ここでは、人間と樹木の関わりというものを大切にして、腕周りを採用したもので、腕周りだけ

でなく色々な方法があつてしかるべきである。メジャーを持っていない時に計測する知恵みたいなものである。

事務局

調査員に子どもたちが参加することも前提として考えており、樹木を抱えて、樹木を体感しながら計測するといった方法を重視しているものだが、布製のメジャーもあれば便利である。

雑木林調査隊

レンジャー隊では、衛星を利用したGPSを利用して距離を計測するらしいが、利用できないのか。

委員長

確かに自動車のナビゲータシステムでも距離が計測できたりするので可能性がある。

事務局

デジタル・ディバイドが問題になっているが、ここではアナログ的な捉え方をし、身近な道具や身体そのものを利用することで、誰でもできる簡単な調査方法を指向しているものである。また、自分の身体を利用して測ることで、樹木への愛着も湧いてくるのではないかと考える。

(デジタル・ディバイド)

情報通信技術(インターネットなど)の恩恵を受けることのできる人とできない人の間に生じる情報格差を指す。

委員長

確かに携帯電話などが、そのような機能をもって、みなさんが身近にもっている道具となれば、使用することも可能性がある話である。

事務局

この楽しさ森²調査では、雑木林全ての毎木調査を行うのではなく、一定の標準的なコドラード(20m四方枠)の調査を実施して、森全体を推し量っていく方法を採用している。全体を調査することも重要だが、そのために、効率性が重視され過ぎて、あたかも仕事としての成果を求める形になってしまいがちである。ここでは、森を体感しながらじっくりと調査していくことを重視していく考えである。

^{まいぼくちょうさ}
(毎木調査)

個々の木について、種名や大きさなどを記録することを毎木調査という。調査項目はさまざまだが、大きい方から選び、樹種、高さ、胸高直径、樹冠の広がりなどを記録する。

(コドラート)

植生調査の一般的な方法の一つで、コドラート法(quadrat method)と言われている。その地域、区画の植生の特徴が最もよく出ていると思われる場所を選び、そこに20mから25m程度の正方形のコドラード(枠)を設置し、その内側を標本として調査を行う。

委員

森を感じていくためには、自然の中で生かされているといったことが感じられれば良い。そのためには、五感で雑木林を感じる事が重要であることから、身近な道具である身体そのもので計測する人間尺度を利用するものである。

委員長

精度の問題も、距離が何ミリ違っているかは問題ではないし、調査ジャンルによってその精度は違って来る。例えば、樹木については本数を把握しても、下草などは本数よりも被度や群度（ブラウン・ブランケ）が重要である。

（ブラウン・ブランケ）

繁殖の量や様子を示すための方法で、種別の植被率を示す被度と群落の状態を示す群度をそれぞれ5段階で表記する。

被度	群度
5段階 75-100%	5段階 大きなマット状で全域を覆う
4段階 50-75%	4段階 パッチ状または切れ切れのマット状
3段階 25-50%	3段階 大きな群を作る
2段階 10-25%	2段階 小さな群を作る
1段階 1-10%	1段階 単独で生える
+ 1%以下	

事務局

風速などは気象庁によると12段階の名称が付いています。その風速を計測するためには、風速計といった計測機器もあっても良いが、あくまでも体感するための補助的な意味合いで利用したい。

（気象庁風力階級）

風力0(平穏:風速 0.0~0.2m/s)	風力9(大強風:風速 20.8~24.4m/s)
風力1(至軽風:風速 0.3~1.5)	風力10(全強風:風速 24.5~28.4)
風力2(軽風:風速 1.6~3.3)	風力11(暴風:風速 28.5~32.6)
風力3(軟風:風速 3.4~5.4)	風力12(台風:風速 32.7~36.7)
風力4(和風:風速 5.5~7.9)	風力13(名称無:風速 36.8~41.4)
風力5(疾風:風速 8.0~10.7)	風力14(名称無:風速 41.5~46.0)
風力6(雄風:風速 10.8~13.8)	風力15(名称無:風速 46.1~51.1)
風力7(強風:風速 13.9~17.1)	風力16(名称無:風速 51.2~55.8)
風力8(疾強風:風速 17.2~20.7)	風力17(名称無:風速 55.9~60.9)

雑木林調査隊

木の高さなどは、機械的に計測しないと難しいのではないかと。幹周りから想像できるものなのか。

委員長

確かにケヤキなどは25メートルぐらいになるものがある。測高器という計測器であれば12メートルぐらいまでは測れるが、それ以上は目測で測る。三角比で計算する方法もあるが見通せないと感じる。

委員

三角比では樹木と地面が90度でないと感じると誤差が生まれる。また幹の成長なのか枝の成長なのか見きわめる必要がある。

委員長

小平のような30から50年の間、萌芽更新がされていない雑木林は、前年よりどれだけ成長したかということについては問題にならない。むしろ幹周りで調べた方が良くも悪くもない。

雑木林調査隊

小平の雑木林の近くには電柱があることが多い。その架線の高さは決まっているものなのか。そのようなもの、例えば木造の2階建だったら屋根の高さが何メートルであるとか、雑木林の近くにある構造物を測りにするのも良いかと思う。

委員長

そのような構造物の標準的な構造として高さが決まっているかもしれないので、調査し、一覧にしとくと利用しやすい。

事務局

今後できるだけ調査したい。ちなみに、次回調査では10メートルの釣ざおを利用して樹木高を計測する予定である。

2 第2回楽しさ森²調査の企画内容について

委員

森の宝物を撮影するカメラは1台では少ないのではないか。

委員長

ワークシートの4ページの「元気がない木」と「枯れてる木」の項目については春の調査内容であるので、今回は外すべきではないか。

事務局

カメラは2～3台用意する。ワークシートの当該個所については削除する。

雑木林調査隊

森の宝物を発見した場所をどのように表現したらよいのか。

委員長

地図上で表記するのは表面的である。実際には木の枝や根本などであったりするので、周りの状況を記載する項目があっても良いだろう。

雑木林調査隊

ワークシートの2ページ目の地図で、周りの住宅なども記入した方がよいのではないか。

委員長

周りの状況は重要な情報である。また、方位も大切なので、南北線を現地で測り、地図上に表記したうえで、コドラートの南北線を方位に合わせて描く必要がある。

委員

森の宝物とは主観的なものである。個人の価値観で宝物を探すことになる。

委員長

そのとおりだ。それが森の多面性であり、昆虫から見ても、人間から見ても、子どもや大人から見ても多様な空間に見えているものだ。それが森の魅力につながっていると考える。

3 スケジュールについて

委員長

来年5月に開催される全日本花いっぱい小平大会では、雑木林の野草の花たちを全面に出していくことが、森のカルテと花いっぱい運動の関わりにつながると考える。

委員

小平の雑木林では、4月の初め頃にタチツボスミレが多く見られる。玉川上水では、カタクリ、ニリンソウ、アズマイチゲ、イチヤクソウ、ヤマブキソウなども生えている。小平らしい花として、園芸種だけでなく野草の花を発信することも重要だ。

委員長

スミレ調査隊みたいなことができないか。最近では、玉川上水沿いでクサボケが復活している。浮世絵師の広重が描いた玉川上水の絵にはクサボケが書いてある。

あんどうひろしげ
(安藤広重)

浮世絵師「歌川広重」。出世作として有名な東海道五拾三次の他、数々の風景画を手掛けた。名所江戸百景や富士三十六景には玉川上水を描いた絵も見られる。特に富士三十六景の「武蔵小金井」には、小金井サクラの他にクサボケが描かれている。寛政9年(1797年)～安政5年(1858年)62歳で生涯を閉じる。

委員

キンランやギンランも雑木林で復活している。全日本花いっぱい小平大会では、ドングリ里親制度といった企画も実施するが、新たな苗木を植えて、その豊かな林床に野草の花が咲くことが小平の花いっぱい運動のアイデンティティーの一つとなるのではないかな。

事務局

スミレだけに特化できるかは分からないが、雑木林の野草の花たちといったテーマで写真を収集したり撮影したりして、全日本花いっぱい小平大会のイベントで掲示できれば、全国への発信することができる。まずは、雑木林調査隊の皆さんの中にも、野草を良く御存じの方もいると思うので、メール等で写真の提供を働きかけることも検討したい。以上でよろしいでしょうか。

本日はお疲れさまでした。

平成 23 年度 第5回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録 及び第2回楽しさ森²調査についての報告

開催日時

平成 24 年 1 月 14 日（土曜日） 9 時～16 時 15 分

開催場所

中島町地域センター 2 階 集会室及び近隣の雑木林の森

出席者

- 1 小平市森のカルテ作成準備委員会
椎名委員長・山田委員
- 2 雑木林調査隊
11 名参加
- 3 事務局
2 名

調査内容

- 1 標準的な植栽としてのコドラート（枠）の選定
- 2 コドラートの設置
- 3 コドラートの毎木調査
- 4 森の宝物さがしの実施

<報告内容>

1 調査対象区域のコドラート（枠）の設置

(1) コドラートの定義

植生調査の一般的な方法の一つで、コドラート法（quadrat method）と言われている。雑木林などの調査地域、区画の植生の特徴が最もよく出ていると思われる場所を選び、そこに 20 m から 25 m 程度の正方形のコドラード（枠）を設置し、その内側を標本として調査を行うものである。

(2) コドラートの設置場所の決定

コドラード（枠）を設置する場所としては、その植生の特徴がよく現れたところになる。雑木林のような 2 次林では、関西のマツ林ではなく、クヌギやコナラの混合林が多いので、もっとも典型的なところを選ぶ、ということになる。しかし、小平の雑木林は比較的小規模な樹林で、市街地にあることから通路形態の箇所もある。通路形態の箇所をなるべく避けて、20 m 四角の区域が設置するためには、隣縁部も含んだ区域取りも考えなければならない。また、冬季よりも植生が豊かな春～夏季の選定が好ましい。

【ポイント】

標準的な植栽を選定するのにあたり次のことを注意すべきである。

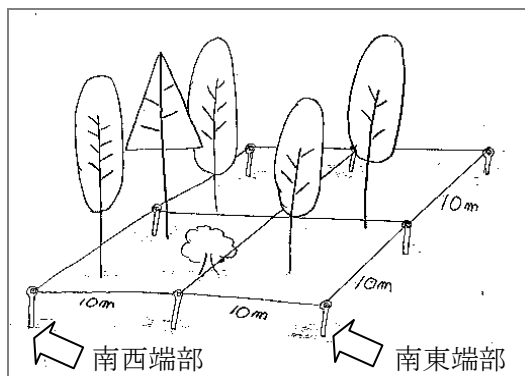
○通路形態の箇所は外すようにする。

○冬期は落葉しているので、標準的な植栽を選定する時期としては好ましくない。

(3) コドラートの設置

コドラートの区域がわかるように、杭などの表示を方位軸に合わせながら設置する。
設置作業の概要は次のとおりである。

- ①コドラートの南東端部を決めて、ロープ杭を地上に刺す。
- ②ロープ杭にビニールロープを結ぶ。
- ③ロープ杭にメジャーのゼロを合わせる。
- ④西方向に、メジャーとビニールロープを3メートルほど伸ばす。
- ⑤西方向に伸ばしたビニールロープについて方位磁石で真西を示しているか確認する。
- ⑥更にメジャーとビニールロープを伸ばし10メートルの位置で方位を確認する。
- ⑦方位が真西であれば、10メートル地点にロープ杭を刺して、ビニールロープを結ぶ。
- ⑧上記④～⑥の作業を行って、20メートルの位置で、真西の方位を確認する。
- ⑨方位が真西であれば、20メートル地点にロープ杭を刺して、ビニールロープを結ぶ。
- ⑩次に③～⑨の作業を真北に向けて同様にを行う。
- ⑪次に北西端部から③～⑨の作業を真東に向けて同様にを行う。
- ⑫次に北東端部から③～⑨の作業を真南に向けて同様にを行う。
- ⑬結果的に一番最初に刺したロープ杭と一致すれば、北側に向かって、縦軸が南北軸で、横軸が東西軸の20メートル四方の正方形のコドラートが表示されたことになる。
- ⑭最後に、各辺の10メートル地点のロープ杭から南北と東西方向でビニールロープを結び、20メートル四方のコドラートを4分割する。



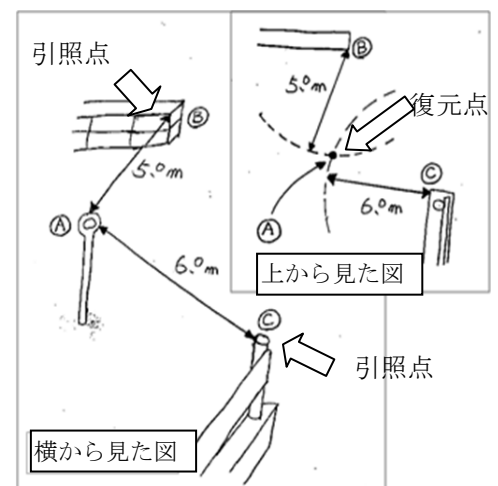
コドラートのイメージ図

【ポイント】

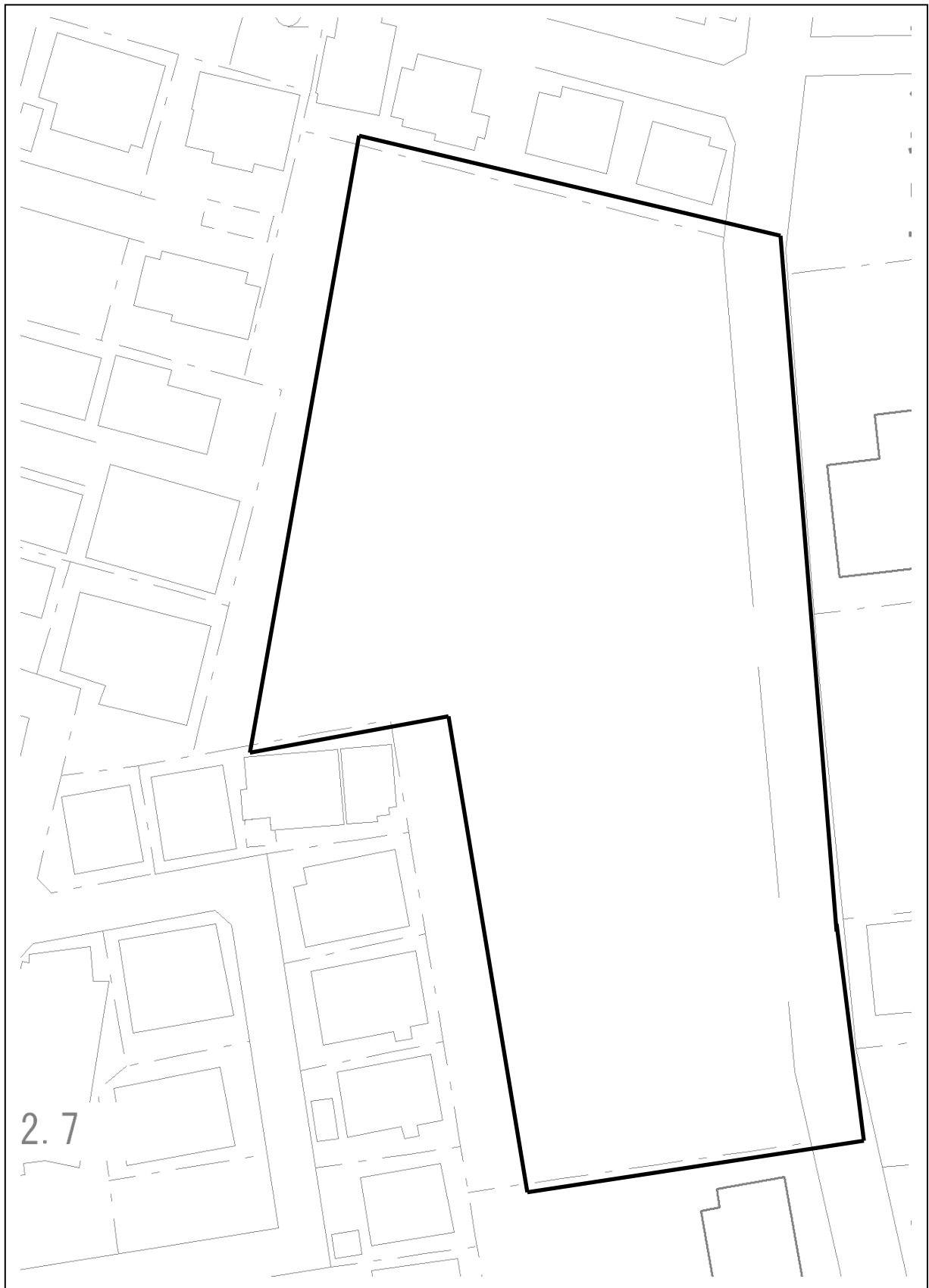
- 端部を持つ人、メジャーを伸ばす人、ビニールロープを伸ばす人（杭を刺す人）、方位磁石を当てる人、方位磁石を読み取る人などの役割分担が必要です。
- ビニールロープを張る先に藪や樹木の幹がある場合は、ロープ高さ調整や手前で区切るなどの工夫が必要です。
- ビニールロープは細めの糸状の物が、方位磁石の方位を読み取りやすい。

(4) コドラートの復元

コドラートを設置しても、季節ごとに森の調査が実施されることから、調査ごとに設置し撤去することになる。そのため、コドラートを同じ場所に設置（復元）できるように、任意の2箇所（左図②③、この点を引照点とも言う。）からロープ杭（左図①）までの距離を記録する必要がある。復元する場合は、この引照点（インショップ）からの距離を図り、その交点がロープ杭を刺す復元点ということになる。全ての点でなく1点だけこの作業を行えば復元できる。引照点の2箇所は、ある程度固定した工作物、例えば道路の標識杭やブロックの角などを指定し記録する。このような記録は、簡単な点の記（テンキ）とも言えるものである。



(5) 実際のコドラートの設置結果



2 コドラート内の毎木調査

(1) 毎木調査とは

一定区域内に植生している個々の木について、樹木の様子を記録することを毎木調査（マボクショウ）と言う。調査項目はさまざまだが、樹種、高さ、目通し幹周り、樹冠の広がりなどを記録する。

(2) 樹木の分類

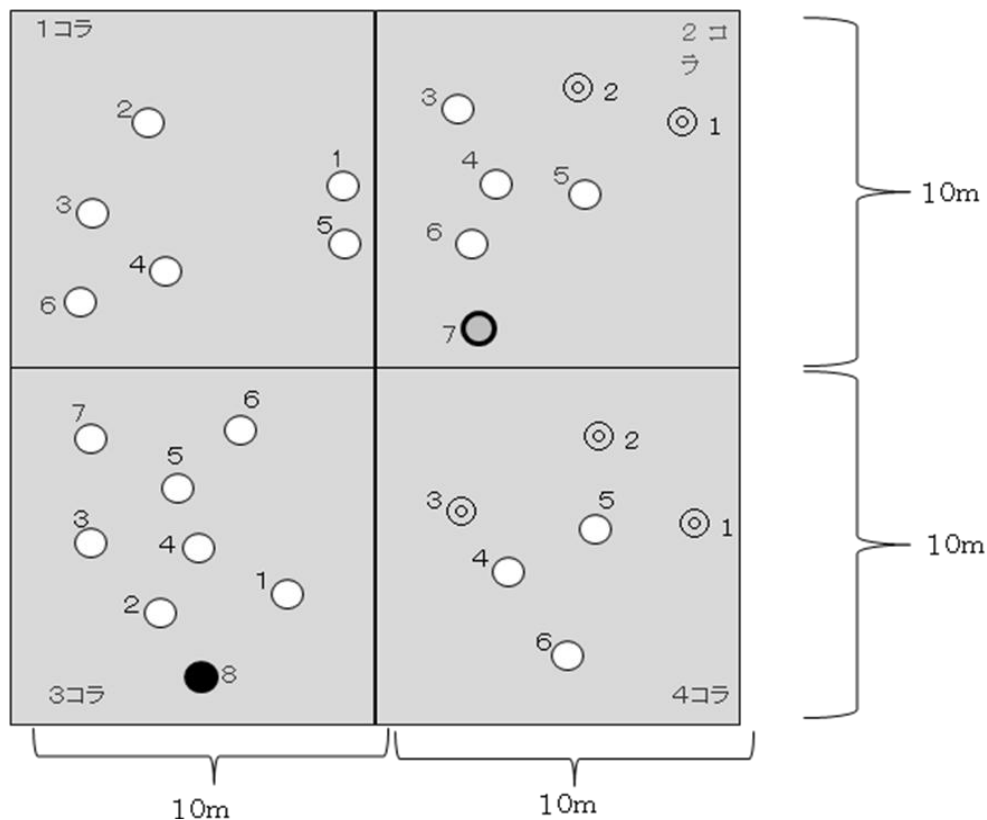
【落葉樹と常緑樹の例】

針葉樹	{	(落葉針葉樹) → 表示 △系
		高木：イチョウ・メタセコイヤ・ラクウショウなど
広葉樹	{	(常緑針葉樹) → 表示 ▲系
		高木：アカマツ・サワラ・スギ・ヒノキ・ヒバなど
広葉樹	{	(落葉広葉樹) → 表示 ○系
		高木：エゴノキ・エノキ・クヌギ・ケヤキ・コナラ・サクラなど
		中木：トサミズキ・マユミ・マンサク・ムクゲ・ムラサキシキブなど
		(常緑広葉樹) → 表示 ●系
		高木：アラカシ・クスノキ・シラカシ・スダジイ・モチノキなど
		中木：カナメモチ・キンモクセイ・マサキ・モッコク・ヒイラギなど

(3) コドラート内の毎木調査結果

① 樹木の配置図

樹木種類の表示 ○=ケヤキ ◎=コナラ ●=クスノギ



【ポイント】

葉の様子や樹勢などは、葉が展葉し森の息吹を感じる春から夏の調査がよい。

②樹木の様子

毎木調査(落葉)			1 コラ						
地図 No	現地 No	樹種	幹周り	高さ	樹勢	枝ぶり	葉の様子	損傷	備考
1		ケヤキ	0.32	8					
2		ケヤキ	0.6	12					
3		ケヤキ	1.3	13				幹の欠損	
4		ケヤキ	1.35	28					
5		ケヤキ	0.16	4					
6		ケヤキ	0.26	7					

毎木調査(落葉)			2 コラ						
地図 No	現地 No	樹種	幹周り	高さ	樹勢	枝ぶり	葉の様子	損傷	備考
1		コナラ	1.38	22					
2		コナラ	0.89	25					
3		ケヤキ	0.54	12					
4		ケヤキ	0.29	9					
5		ケヤキ	0.24	4					
6		ケヤキ	0.28	7					
7		クヌギ	1.42	28					

毎木調査(落葉)			3 コラ						
地図 No	現地 No	樹種	幹周り	高さ	樹勢	枝ぶり	葉の様子	損傷	備考
1		ケヤキ	1.57	20					
2		ケヤキ	0.25	5.5					
3		ケヤキ	0.43	11					
4		ケヤキ	0.43	9					
5		ケヤキ	0.41	9.5					
6		ケヤキ	1.42	21					
7		ケヤキ	0.23	7.3					

毎木調査(常緑) ～冬でも葉がついてる木			3コラ						
地図 No	現地 No	樹種	幹周り	高さ	樹勢	枝ぶり	葉の様子	損傷	備考
8		オリーブ	0.11	3					

毎木調査(落葉)			4 コラ						
地図 No	現地 No	樹種	幹周り	高さ	樹勢	枝ぶり	葉の様子	損傷	備考
1		コナラ	1.21	17					
2		コナラ	0.52	9.5					
3		コナラ	0.72	15					
4		ケヤキ	0.22	8					
5		ケヤキ	1.7	23					
6		ケヤキ	0.54	9					

3 森の宝物探し

(1) 森の宝物の内容

【ポイント】
 プロジェクターで写真映像をスクリーンに映し出し、
 映像を拡大などして情報共有すること。

区分	内容	特徴	発見場所	周りの状況
宝1	落ち葉の下の写真1	ロゼットの生え方に見えます。	森の西端	伐採された草地
宝2	落ち葉の下の写真2	立ちあがって生えています。	森の西端	伐採された草地
宝3	キノコ	乾燥して残っていました。	森の西南端	伐採された草地
宝4	晴天	雲一つない晴天	南側から北の空を撮影	4コラの○4～6辺り
宝5	クヌギの落葉	コナラより細長い	南端部	
宝6	キササゲの実			

宝物 1



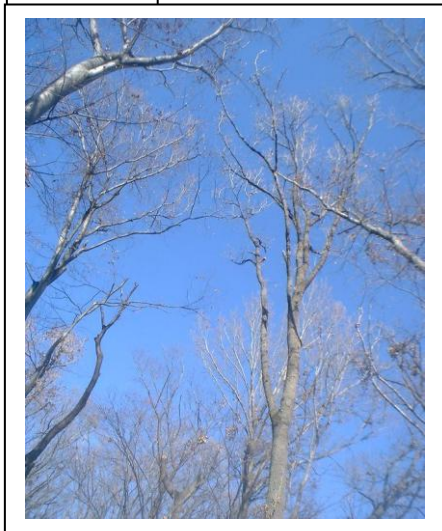
宝物 2



宝物 3



宝物 4



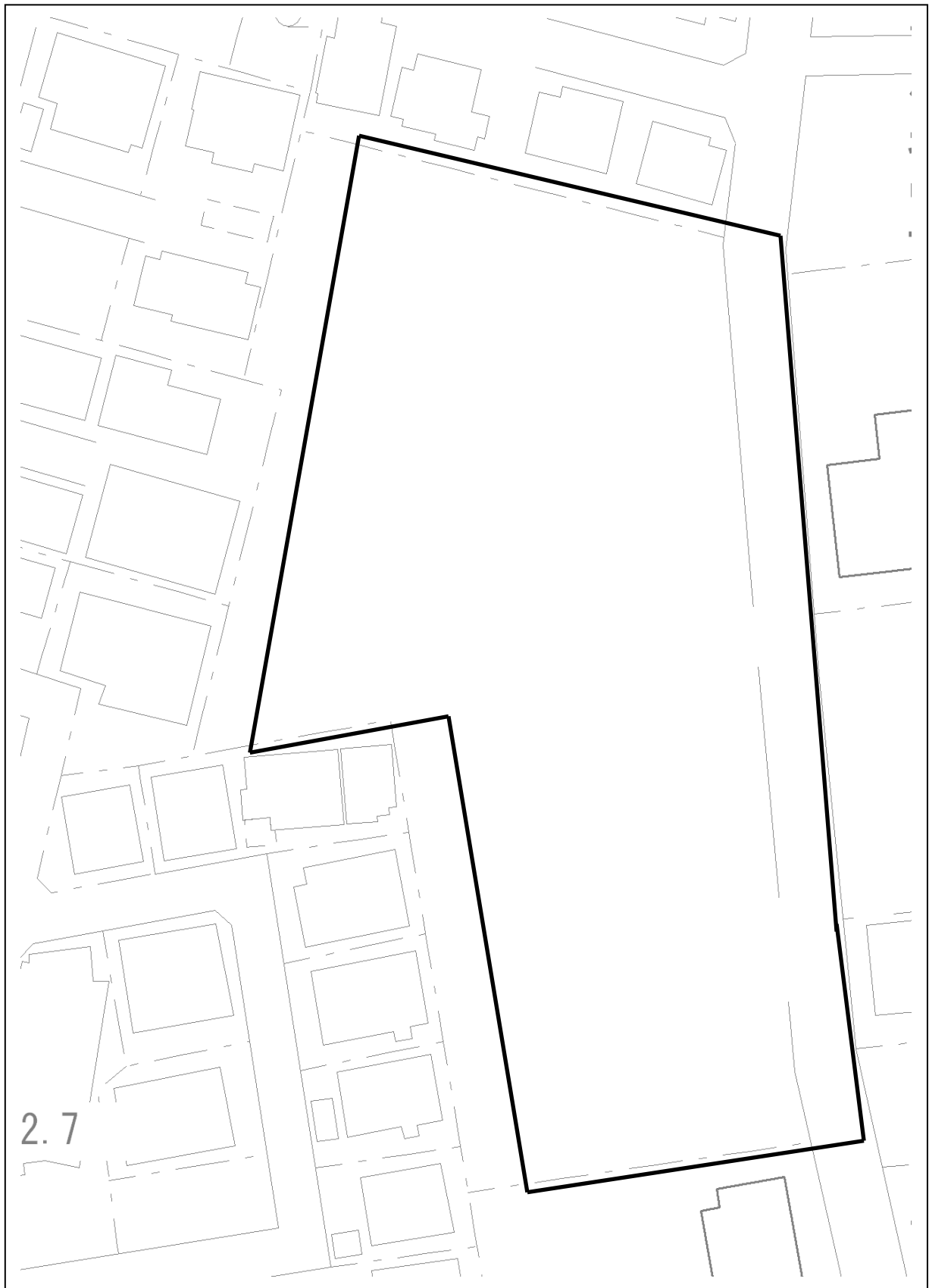
宝物 5



宝物 6



(2) 森の宝物のあったところ



平成 23 年度 第 6 回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録(報告)

開催日時

平成 24 年 2 月 13 日 (月曜日) 13 時 00 分～15 時 30 分

開催場所

小平市役所 3 階 庁議室

出席者

椎名委員長 山田委員 2 名
(事務局) 2 名

雑木林調査隊

8 名

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 第 2 回楽しさ森²調査の結果について
 - (2) 第 3 回楽しさ森²調査の企画内容について
 - (3) 野草花の写真収集の取組みについて
 - (4) スケジュール
 - (5) その他
- 3 閉会

配布資料

- 資料-1 第 2 回楽しさ森²調査及び第 5 回森のカルテ作成準備委員会の結果について
- 資料-2 森のカルテのホームページ掲載について
- 資料-3 第 3 回楽しさ森²調査の企画内容 (案)
- 資料-4 第 3 回楽しさ森²調査のワークシート (案)
- 資料-5 野草花の写真収集の取組みについて
- 資料-6 スケジュール

<議事>

1 第 2 回楽しさ森²調査の結果について

委員長

資料 1 の 6 ページの宝物 5 はクヌギではなくコナラの落葉である。文面は、「クヌギより幅がある。」にした方がよい。コナラの落葉だけではなく、クヌギの落葉も併記した方が分かりやすい。資料 2 の 2 ページの作業畠とは何か。

委員

本来、「サクバタケ」と言う。柴、萱などを家の建材や燃料の火種、縄などを生産する場所。共有地である。

委員長

ススキなどを共同で仕入れをし、屋根の茅葺きのカヤとして一軒ずつ集める。例えば、今年は、小平さんの所を3分の1集め、来年は小川さんの3分の1を取る。30年の中で何年かかかって、自分の家の茅葺の分を揃える。結（ゆい）みたいなものである。大根や人参、小麦を作っていたような畑ではない。

委員

この辺の古地図を見ると、東大和駅から小川橋の間の左右近辺に作業畠という文字が多い。村の中に入っていくと畑である。作業畠は、村の共有地である。建材に使用したり、家によっては、燃料に使ったりしたという文面が残っている。多分それではないか。

委員長

資料1の3ページ、資料2の3ページの地図について、東側の拡大図の市のマークの北西端は、市のマークが動かないからこれで良い。しかし、資料1の拡大図でない所に6.09mと距離が明記してあるが、南側の拡大図に記入がない。この拡大図に6.09mを入れた方が良い。これは、工作物で、他人の物なので、動く可能性がある、便宜上は、ブロックから4つ目で良いが、復元できなくなる可能性もある。境界石から、6.09mを測れば復元できるから、道路の線を東側の図のように表記し、そこから6.09mと表記した方が良い。

事務局

右側の拡大図もブロックの隅などを入れたうえで、6.93mと入れた方が良いか。

委員長

市のマークは動かないとはしているが、6.93mも入れた方が良い。市のマークは何でここにあるか。

事務局

道の曲がりである。

委員

宝物の写真の欄のキノコの名前を載せなかった理由はあるか。

事務局

キノコの種類が「ナラタケ」であると確認できなかったもので、表記していない。

委員

最終的に、「ナラタケ」と「ナラタケモドキ」の2つの形態があった。違いは、ハカマが有るか無いかだけである。従来あったハカマが取れただけなのか、ハカマが無かったのか、分からないので表記していないのか。

委員長

将来、他の木に伝播する可能性がある。キノコの場所を書いておくことが大事である。隣の木に伝播しているかどうかという方が大きい。

ナラタケを見つけたことで、この森がナラタケで汚染されているという可能性がある。ナラタケであれば、檜の木の細い枝を何本も切り、その木の周りに、グリット状に挿しておくところまで伝播しているかわかる。ナラタケはこの方法で、土壌が汚染されている範囲をある程度特定できる。ナラタケは根球で、根っこを腐らせ、だんだん樹勢が悪くなって枯れてくる。東村山との境、明治学院東村山高校の南側に桜があるが、この桜を見ていくと、だんだん西へ向かって伝播が進んで桜が無くなっている。

ナラタケに汚染された根株の根が、他の木の根に接触して、ナラタケが移っていくのである。そうすると、健全だった木が、ナラタケ病になる。それを見

ておかないといけない。掘り上げてしまえば良いが、民間の方の森なので、そうはいかない。だから、そのの所をきちんと見ていかないといけないので、ナラタケならナラタケと明記しておかないといけない。

サルノコシカケの場合はそんなに意味はない。ただ、空気で伝播するからやられてしまう可能性はあるが。ナラタケの場合は空気での伝播もあるが、根の接触で伝播するので、やはり、ナラタケと一応明記しておいて、ある意味、カルテの診断としては、非常に宝物である。見つけた方はかなり優秀だったということだと思う。

キノコは様々であるが、ナラタケの場合は要注意である。さしあたってはナラタケと明記し、夏か秋にきちんと確認すれば良い。ナラタケとナラタケモドキも根で伝播していくので同じである。両方とも木に悪さをする。

委員

今、日本海沿いで「楢枯れ」というのを聞いたことがある。「松枯れもあるが、楢枯れの原因はナラタケ菌も一部関係していると言われている。現在は日本海側からどんどん太平洋側へと向かっている。

委員長

調査隊の方々、感想でも意見でもかまわないのでお聞きしたい。

調査隊

キノコのあった伐採された木は、何の木だったか。

委員長

伐採人してある木を特定するのは難しい。少しでも萌芽更新して出てくれば分かるが。

調査隊

それ以外にはキノコはなかった。楢の木であるとは思うが。

委員長

伐採して時間がだいぶたっているように思う。ナラタケは、切り株が栄養源である。全部栄養を吸い取るまではいる。やっかいである。宝物6番はキササゲの実だが、地域センターの隣の都営団地の街路樹で採取したので削除して欲しい。宝物1, 2の場所はどこであったか。

調査隊

(地図上にて、1, 2番の宝物の場所を確定)

事務局

本日、調査隊の方で、メールでお願いした宝物をお持ちの方はいますか。後で写真を撮らせてもらおう。調査日に、皆さんがそれぞれ宝物を持って集合写真を撮れば良かった。

委員長

季節ごとに宝物は違うから大丈夫である。枯れた草を押し花芸術のように、とても上手に作った調査隊の方がいたが、枯れた植物の想定は困難である。落葉の中に色んなみどり資源があり、それを自分がどう表現するかで自分の宝物にもなる。また、先ほどのキノコみたいに、カルテの宝物になったりもする。

コドラートの設置については、最初は東の南北、次は、南の東西、3番目に西の南北に線を引いた。最後は5~10cm位の誤差であったことから、かなりの精度で作成したことになる。方位磁石を使い、持ち手と磁石を測る人、引張る人など、コドラートの設置としては正確に出来たと思う。

2 第3回楽しさ森²調査の企画内容について

委員長

第3回調査の日程であるが、今年は寒いので、コナラやクヌギの展葉が遅れているので、日程も当初案より遅らせた方がよい。

【展葉（てんよう）】

畳まれた状態の発芽した葉が開くこと。

委員

昨年のだんぐりの芽出し（発芽）は4月10日である。

事務局

事務局の都合も調整し、第3回楽しさ森²調査の日程は4月28日（土）、予備日は5月19日（土）とする。

委員長

ブラン・ブランケという表現よりも「ブラン・ブランケで植生調査」と表記した方がよい。被度と群度の2つは難しいので、被度だけにした方がよい。群度と被度の分かれ目が難しい。

委員長

例えば、わかりやすいのは、アズマネズサが地面の全部を覆っているというのなら被度の5段階である。今回は被度だけにしたほうがよい。コドラートの中を16分割し、どこを選ぶかというのがかなり難しい。

委員

1種ごとにとということか。

事務局

今回は1種だけと考えている。イメージ的には、1枠を1人が担当する。16人いれば全部記載できる。

委員長

それには事前にかかなりの訓練がいる。同じレベルになるかどうか、16人いれば16全部できるというのは早計かもしれない。

事務局

今回は体験学習ということを含めて実施しているので、完成度よりは、皆さんが、ブラン・ブランケというのをやり、一つの指標にするのだという体験を趣旨としている。2人1組で16コマ調査できなくてもよい。

委員長

ブラン・ブランケによる植生調査には色んな項目がある。被度と群度だけではない。全部完成させるのには時間がかかるが、皆さんに、今やるのはこの部分だと知っておいてもらってもよい。

コドラートの20m×20mの中で、1番目は、は断面図を作る。2番目として、樹冠投影図というのを作る。上から見て木がどんな形かを観察する。

本当は、植生調査表というのを最初に作って、被度などを書き込む。これで植物同士の関係を調べる。生態学だから。一番高い木、一番太陽が当たっている優勢種は何であるか。優勢種の樹木の下に生えている木は日が当たらないなどの影響を受けるし、その下草も影響を受ける。また、端の方の日が当たる部分の下草は植生が違ってくる。他には、外来種や西洋タンポポ等が侵入してくるということがある。そういう関係性を調べる。

今回調査するのは、被度である。例えば、アズマネズサで覆われている箇所が全体の面積の何パーセントだから被度が何段階と植生調査表に書き込む。最初にこれが出来れば森のカルテは色んな意味で良くできたものになる。

委員長

どうやって取り組みやすくしていくのが大事である。全体がわかっているというのであれば。林片とって、林の外側の2m×2mと中側の2m×2mがどう違うかということが出てくるが。全部やることはないが、植生調整はやらざるを得ないと思う。森のカルテでやる以上どこかで植生調査はやらないといけない。それでわかるのは、太陽が当たるかどうかの問題である。

委員

照度の問題である。

委員長

雑木林の一番上は全部の太陽をもらっている。今回調査した場所ではケヤキなどである。高木は太陽が当たっているがその下の木や草は限られた太陽しか当たっていない。上のものに下のものが否定されている。しかし、下のものでも強いものもある。あそこには生えてないが、シラカシなどは少しくらい暗くても生えてくる。だから、ケヤキが枯れてもシラカシは大丈夫である。しかし、シラカシの下ではケヤキは育たないという関係が他の森ではおきている。その所はこういう調査をやって理解することは大事である。

委員

まず、何の植物かの同定からか。

【同定（どうてい）】

生物の種や名を調べることをいう。種を決定するには、文章や写真による説明が、その仲間に共通の特徴であるのか、種を判別するのに使える特徴であるのかを区別することが大事である。

委員長

同定力と言って、生物識別能力、同定力が重要である。

事務局

確かに、コドラート50cm四方にどんな植物があるかを押さえることが大切である。

委員長

春だから色々な植物が生えているから、まずは、同定をやることにするか。同定して区分する。雑木林の中に普通に見られる物、外来種、本来、雑木林にはないが通路際にある物であるとか分類をしてからこの調査を一緒にやれば良いかもしれない。

委員

南東の1角のコドラートの中身は、ほとんどが外来種のオオブタクサである。それがどのくらいの頻度で出ているか。それがどんどん西へ入っていくと思う。そうなると下草が弱くなるから、様々な植物が育たなくなる。

委員長

本来、武蔵野雑木林にあるべきものと、それ以外のものなど何種類もでてきて難しいと思うが、同定する力をつけるということで実施した方がよいと思う。武蔵野の雑木林に本来あるべきものと、生活上でてきたものと外来種が出てきたもので分けて持ち帰って議論をしてもよい。そういうことを知ることが大事である。

事務局

今まで、資料の中で、雑木林に本来生えてた、又、生えるであろう下草類の一覧や、園芸種のあり得そうな一覧、ある程度特定できるような資料を用意する。

委員長

野草図鑑、雑草図鑑などを用意して、これを見ながら同定できるかどうか。

事務局

同定するためにどうするか。ブラン・ブランケで調査をすると色々な種類が入ってくるがどうするか。

委員長

そんなに広い範囲じゃなくてよい。2 m位の正方形でよいのでは。被度も分担して一人ずつでもよいであろう。

事務局

歩いて、下草で、おもしろい野草類を見つけたら、同定し、その野草類を中心に50 cm四方にどのくらい生えているかを調べるのはどうか。

委員長

自分のコドラートの枠を決めたらそこを調査した方がよい。これは、好きな物を探すのではないから。例えば、枠の中の植物について、同定できる植物が何種類、同定できる植物が何種類あったかをきちんと認識した方がよい。興味のある植物を見つけ、調べるのは後半の宝物探しなら良い。

コドラート枠は2 mでなくても1 m真四角でも、自分の枠を決めたら、その中で同定できたのは何種類か、できなかったのは何種類かを把握する。例えば写真で撮って、午後写真で同定できるものもある。これで同定のやり方が一つわかる。

植物Aというのがどのぐらいの被度で覆っているのかを記入する必要もある。植物Aの名前がわからなくても、Aが覆っているのはわかる。写真を撮り、持ち帰って皆で同定できればいいと思う。コドラート枠は、1人1 m四方でも良いかもしれない。

委員長

次に区分けをどうするか。

事務局

既存のものを使うか。新たなコドラート作りになると大変であるか。

委員長

例えば、一番南の1列を2 mの真四角を10個作り、次は作業スペースにしておく。それを森の中と林片と2つ作れば作業できる。段取りで考えて、作業幅を確保すれば大丈夫。南からと北から2方向から見れば大丈夫である。被度をどうやって出すか、植物の同定をどうやってやるかを体験してもらおう。その場でわからなければ持ち帰るか、聞いてもらえばよい。

展葉の時に葉の形が違ったりする。例えば、朝顔も双葉と本葉の形状が違うように、下草も双葉と本葉と違うから5月の方が良いかもしれない。

【双葉（ふたば）と本葉（ほんば）】

双葉とは子葉（しよう）のこと。子葉とは、双子葉類の最初の葉である。形は成体の葉とは大きく異なることが多い。双子葉類では2枚あるため二葉ともいう。発芽後、双葉の次に出てくる通常の葉のことを本葉（ほんば）という。

委員長

全体の今調査しているものがあるから持って来て、皆さんに見ていただいて説明する。パワーポイントなども作ってある。

事務局

事前に調整します。

3 野草花の写真収集の取組みについて

委員長

写真の対象条件は1つでもよいか。

事務局

3条件を満足する必要がある。

委員

展示方法は。

事務局

電子データ化して、拡大等して、A1位の大きさに加工し、展示したい。

4 スケジュールについて

事務局

第3回楽しさ森²調査の日程は、4月28日(土)とし、予備日5月19日(土)と修正する。

以上